

榑下宿は上山市の東南に位置し、蔵王連峰の麓の静かな集落である。かつては120戸を超える世帯があったが、現在は100戸を割っている。福島県桑折町で奥州街道から分岐し青森市油川まで続く羽州街道の要衝であった。特に、江戸時代初期の参勤交代時には諸藩の大名が往来した宿場町であり、本陣、脇本陣、問屋、旅籠、茶屋などを備えにぎわった。宮城県七ヶ宿町から金山峠を通り山形県に入って最初の本陣、番所がある宿場で、現在でも集落の約半数の世帯に当時の屋号が残り、住民は日常的に屋号で呼び合っている。

また、上山市内に4カ所あるアーチ型の石橋がここ榑下地区に2つあり、歴史的建造物や史跡は数多く、往時の面影が色濃く残っている。本陣跡など茅葺き屋根の家5棟が残っている。羽州街道58宿の中で、宿場の特徴を最も強く残すのが榑下宿といわれるところだ。街並みもカタカナの「コ」の文字型に形成された宿場で、明治16年に新道ができて今は「ロ」の字型になっているが、地区の中心部は上町、横町、下町、新町と呼ばれ、下町が宿場の中心であった。昭和40年代に東北大学の佐藤工教授がこの地区に注目し多くの学生とともに榑下宿を詳細に調査し、以来一躍注目されるようになった。しかし、時代とともに多くの家屋が改築され茅葺き屋根が消え、高度成長期にはこれに拍車がかかり一段と寂しい姿になった。

昭和57年に現状を憂える機運が高まり「榑下宿保存会」が結成された。街並み保存会としては当時は珍しい全戸加入であった。結成以来、古い民家や文化財などの清掃、雪囲い、雪下ろしなどの活動が中心であった。ところが、平成5年に脇本陣「滝沢屋」を解体復元、平成7年には羽州街道が当時の建設省の「歴史国道」に選定され、文化庁の「歴史の道百選」にも選ばれた。平成8年には榑下宿で最も古いといわれる脇本陣「庄内屋」や「旧武田家」が、解体復元された。平成9年には文化庁から「羽州街道榑下宿、金山越」の名称指定を受けた。

これらを機に、保存会では従来の管理、保存だけの活動から宿場町に残る歴史的建造物、文化、景観などの財産を地域資源として活用すべきではないかという声上がるようになった。もちろん、管理、保存したいという純粋な心情を軽んじるのではない。資源価値を利活用し地区の発展を望む難しいソフト面の活動を真剣に考えようというのである。地区の

みんなで議論を重ねた結果、自分たちでできるささやかなことから始めようと自主活動に着手した。まず、地区に住む人たちが榑下宿の良さを実感することが大切と考え、さまざまな種類の勉強会を開催した。

年ごと多くなる外部から訪れる人たちに対して、あまりにも不親切であったと反省し、有志で「榑下宿観光ボランティアガイド」を立ち上げ、少しでも榑下の良さを知ってもらおうとしたり、「子供たちに夢を、榑下に元気を」をテーマに、30歳代、40歳代の若い人たちで「遊学榑下宿」を発足させ、子供た

バリューサイト VALUE SIGHT

伝えよう心のふるさと景観 茅葺き屋根の家や石造り橋 住民の誇り羽州街道榑下宿

地区住民が全戸加入し保存会を組織し行政の支援を受けながら羽州街道の宿場町の景観を保全管理しているのが上山市榑下地区である。地域づくりのなかで文化景観の重要性がますます大きくなっており、個性ある地域として輝きを増し、地域外との交流も盛んになる一方のようだ。

ちを中心に伝統行事を復活させるなど、さまざまな企画が練られ、活動が飛躍的に活発になった。

ちょうどこのころ、県の「アルカディア街道復興計画」の事業が始まった。明治11年にイギリスの女性旅行家イザベラ・バードが本県を訪れた際に「ああ、アルカディア」と美しい風景に感嘆した原点に返り、美しい景観、貴重な建造物、個性的な文化などの地域資源を生かした地域づくりを旧街道沿いの地域で展開する事業である。このモデル地域に榑下宿が指定され、それを受けて地区では「アルカディア推進委員会」を設置、榑下宿の整備など将来の課題と目指すべき方向について有識者の意見を求め、地区民が意見を出し合うワークショップを開催した。

山形県、上山市の協力を得ながら、「委員会」でまとめたものを素早く実行に移した。例えば、金山川にかかる石造りの橋をより良く眺めることができるようにする視点場整備が行われ、素晴らしい親水空間ができた。地区外から訪れる人々のための駐車場、トイレ、地区全体の案内板、休憩用ベンチの設置。古民家の周辺環境改善などハード面の整備を行った。ソフト面では、毎月第3日曜日に「民話の日」を開催したり、女性たちの「とっくり踊り」保存、案内マップ「歴史とロマンの世界・羽州街道榎下宿」の作成、名物のコンニャクだけでなく、干し柿、榎炭、



榎下地区に保存されている茅葺き屋根の「大黒屋」(旧栗野家)。文化5年(1808年)の建築。

村山



榎下宿保存会
前会長

栗野 宰

わら細工、漬け物など数多くの物産品開発も行った。四季を通じて榎下宿の魅力を全国に発信し都市の人たちと交流し地域活性化につなげようとしたのだった。また、宿場町同士として昔から交流がある街道沿いの七ヶ宿、二井宿との「三宿連携協議会」を立ち上げ活動している。これは、県境、自治体を越えた独特の組織として大変注目され、今も共通の文化を持つ地域間交流として続いている。

国土交通省の「手づくり郷土賞」を第1回目に受賞したが、平成17年の20周年記念「大賞」を東北地方で4カ所の一つとして受賞した。念願の榎下バイパスも完成し、集落内の通過車両は激減し交通事故を気にせずゆっくり宿場町を味わえる環境も整った。今後は、榎下宿の魅力である文化遺産を大切にしま



「大黒屋」でいろりを囲みながら地区の人に宿場町跡保存活動のコツを聞く視察者たち

ながら市内や他地域と連携を深め、先進地のコピーではない榎下宿独自のまちづくりを進めたい。訪れる人みんなから「日本人のふるさと」と感じてもらえるように。

栗野 宰 (あわの・つかさ)

〒999-3225 上山市榎下29番地。
昭和14年、上山市榎下生まれ。
民間会社を退職後、自営農業に従事。
平成8年度、榎下地区会三役に就任。
平成12年度、地区会長、榎下宿保存会会長に就任。
平成14年度、榎下宿アルカディア推進委員長に就任。
平成16年度、地区会から独立した榎下宿保存会の会長に就任、平成18年3月に退任。